事業所自己評価シート

平成 30 年度

職員による自己評価

Ａ環境面
・ハード面がバリアフリーにはなっていない。
・部屋の広さが異なるためお子様に合わせた場所を提供している

Ｂ児童への支援内容
・スーパーバイザーを中心に発達段階に応じた支援計画の立案と定期的なケースミーティングで指導の統一を行っている

Ｃ関係機関との連携
・就学への移行支援や相談支援事業所・通園施設より希望されれば口頭での情報共有にとどまっている。

Ｄ保護者への説明責任・信頼関係
・スーパーバイザーが中心となり課題の共有
・見学・契約時の運営規定の説明
・苦情受付窓口の常設

Ｅ非常対応
・災害を想定した避難訓練の実施に加え、消防設備・感染症に応じた訓練の実施を予定
・フェイスシートを用いてお子様の身体的特徴をつかみ、必要に応じて個別の緊急時対応マニュアルを作成している

保護者による評価

Ａ環境面
・活動に合わせた空間ではあると思う。
・指導室のにおいや、空調、床の汚れが気になる

Ｂ児童への支援内容
・ABA でしっかりとした療育を行っている

Ｃ事業所からの情報発信
・スーパーバイザーが入った日は特に相談ができている。
・父母の会は非実施。
・ペアレントトレーニングに対しては個別にて対応。次年度より全利用者様に実施予定
・アンケート集計より、概ね保護者様に支援内容のご理解をいただけている様子がみえる。

Ｄ非常対応
・避難訓練の実施はあったが、マニュアルの説明はなかった。

事業所内での分析

【共通点】
・活動に合わせた指導室の提供
・発達段階に応じた療育の提供
・スーパーバイズを中心とした保護者との課題の共有
【相違点】
・職員の配置数や専門性

分析・検討してみて…

事業所の強み

・個別支援であるため、一人ひとりに合わせた環境や、プログラムの提供
・スーパービジョンの頻度が高く、プログラムの適宜調整が可能
・専門性をもちエビデンスに基づいた支援計画の立案
・担当職員が情報共有に努め、ケースミーティングを盛んに行われている
・自己研鑽のために積極的な研修に参加している

事業所の改善点

・心地よい、生活空間の提供
・会社（事業所）が行っていることをどのように周知していくか。
・地域・関係機関との連携強化

事業所の改善への取り組み

・日々の清掃に加えて、床拭きの頻度をあげる
　空気清浄機の使用や換気の強化
・今後も保護者とのプログラムについて見解の相違がでないよう、課題の方向性を一致させていく
・職員研修の機会を次年度も継続的に行い、療育の質の向上に努める

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

保護者の方からの率直なご意見を頂戴でき良い機会になった。
次年度よりペアレントトレーニングが始まり、より家庭との連携を強化し、お子様の発達を促すことにより、生活の質の向上に努めていきたい。

事業所名　　発達療育　レンテ市川
担当者　　松田　あゆみ